

「ヤバイよ！ヤバイよ！」～93分の65と96分の37～

はじめの「ヤバイよ！」は本来の意味です。単位をつけると「93万人分の65万人」、昭和30年の島根県の人口が約93万人、令和5年の人口が約65.5万人、つまり人口が最大の時に比べ今は約10分の7になっているのです。島根県の状況はかなり「ヤバイ」です。令和4年度公民館等実態調査からは、地域課題として「リーダー育成（次世代の人材育成）」をあげた施設が56%、「買い物・交通等交通弱者」をあげた施設が35%あり、他にも「空家対策」「有害鳥獣対策」などがここ5～6年の間に大きく伸びてきました。どれも人口減少・過疎化に伴う課題です。

そんな中、県の令和2年度～6年度の施策運営の総合的・基本的な指針として「島根創生計画」が出されました。その冒頭には「笑顔あふれるしまね暮らし」宣言があり、「人口減少に打ち勝ち、笑顔で暮らせるしまね」を目指して・・・で始まります。この計画の策定を担当されたのが野津健二教育長です。

二つ目の「ヤバイよ！」は若者が使う「最高」「すごくいい」の意味です。単位をつけると「96ページ分の37ページ」これは、一般財団法人日本青年館が発行する「社会教育2023.1 特集 島根県の社会教育」全96ページ中、島根県に関わるページが37ページもあるのです。かなりヤバイです。野津教育長との対談で始まりますが、中には「人が主役、支えるのが地域力」「人の動きを最初に導くことが社会教育」「一方的にお願いするだけでなく学校が地域の方へ貢献する・・・お互い様」など指針となる言葉が山のように出てきます。

さて、社会教育は、教育ですから「人」や「人の成長」を大事にします。私は常々、社会教育の目的を究極一言で言えば「幸せ」？かなと考えています。経済的に恵まれようが貧しかろうが、過疎だろうが過密だろうが、最終的に今の環境の中で、「幸せ」といえるかどうか・・・もう少し言うと自分や周りの人も「幸せ」といえる環境を自分や自分たち、地域で作れるかどうか・・・そんな環境を作ろうとする動きこそが「社会教育」なのではないか！と。そのためには、「意欲（向上心・行動力）」・「学び（知識・知恵）」・「絆（仲間）」（できればお金も・・・）の3つが大切です。センターでは特に「学び」を支援し、「人口減少」の中で「笑顔」をどうすれば実現できるのか、皆様と共に考えていきたいとおもっています。

P.S.：月刊社会教育1・2月号 まだお読みでない方は、ぜひぜひぜひご覧ください。

西部社会教育研修センター所長 真島 陽一

令和4年度の研修・講座をふり返って

社会教育委員研修

学び続ける「社会教育委員」

10/7：あすてらす

【あいさつ】「しまねの社会教育推進に向けて」

島根県社会教育委員連絡協議会会長 有馬 毅一郎 氏

【講義】「社会教育委員に期待すること」

全国視聴覚教育連盟 会長 馬場 祐次郎 氏

【実践発表】「今、自分ができることから、地道にやる」

～雲南市社会教育委員の取り組み～

雲南市社会教育委員会 会長 石飛 安弘 氏
副会長 松島 俊枝 氏



社会教育委員として「自分ができることから地道にやる」を基本姿勢に、①名刺活動 ②掲示板活動 ③学校支援などに取り組んでいる。「せっかく委員になったのだから」と、自ら楽しんで動いていきたいと思う。



【演習】「学び続ける『社会教育委員』を目指して」

■講義・実践発表をもとに社会教育委員の力を発揮するための具体的な動きについて考える。



【アンケート一部抜粋】

・「学び続ける事」の大切さを改めて感じた。社会教育委員としての役割がよりスッパリとしてきた。

1. 社会教育委員は教育に関わる職
2. 社会教育は何のためにするのか
3. 国の答申等に見る学校、家庭、地域住民等の連携・協働の必要性
4. 社会教育行政は本当に大丈夫なのか!
5. もう一度社会教育の意義を見直そう
6. これからの社会教育指導者(社会教育委員)に求められる役割
7. 皆さんへの期待

公民館等職員研修「種」から住民とともに育てる事業づくり

(全5回シリーズ) 11/30：少年自然の家

- 第1回：「種から住民とともに育てる事業」
- 第2回：「住民をその気にさせて巻き込むポイント」
- 第3回：「事業実施に向けての悩みをみんなで解決」
- 第4回：「事業のセールスポイントと成果を伝えるプレゼンテーション」
- 第5回：「紹介します、私の実践」(東西合同発表会)



前年度受講生の実践発表



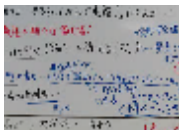
事業の種探し



アイスブレイク



事業づくりのポイントは



悩みをみんなで解決



演習の様子



合同発表会

【アンケート一部抜粋】

・自分のねらった以上の成果を得ることができた。毎回、グループワークで他の人の意見を聞くことができ参考になった。長時間の受講だったがあつという間だった。
・事業は中止になったが、そのことで気づいたことが多くあった。次にやりたいことができこの研修に出て良かった。

公民館等職員専門研修

未来を見据えた公民館等の運営マネジメントの実践 11/10：あすてらす

【講義(オンライン)】

「コロナ禍の公民館『新しい学びのスタイル』とは」

広島県大竹市玖波公民館職員 河内 ひとみ 氏

【交流タイム(質疑応答)】

【演習】「未来を見据えた公民館等の運営マネジメント」

「地域と学校の未来を紡ぐために」



コロナ禍でも交流の拠点となるよう「学び」を止めなかった。また、不必要なものを捨てるチャンスと発想を転換した。体力づくりや、オンラインで学びのカフェ等を実施する。それができた根底にあるのは・・・これまでの

- 玖波公民館は現場主義 地域目線で一緒に汗を流す
- 子ども、若者も巻き込む多世代交流
- 結果をすぐに求めない!!ビジョンを持って継続する事業戦略であり、公民館が核というぶれないスタンス。

【アンケート一部抜粋】

・「ビジョンを持つこと」「PDCAのCAを大切にすること」は、やっていなくてはいけないこと、河内さんのお話がストンと落ちた。
・それぞれの公民館等の活動を聞いてワクワクした。
・コロナ禍でできないことばかりではなく、チャンスと捉えることの大切を学んだ。



コーディネーター研修

地域と学校の未来を紡ぐ

6/9：浜田合庁

【説明】「結集!しまねの子育て協働プロジェクト事業について」

【講演】「今、求められているコーディネーターの役割について」

NPO法人「スクール・アドバイス・ネットワーク」理事長 生重 幸恵 氏

【実践発表】「匹見小中校区地域学校協働活動の取組」

人が育つまち 益田 - 地域と学校の未来を紡ぐ -

益田市立匹見小中学校 社会教育コーディネーター

東島 今日香 氏

益田市教育委員会 派遣社会教育主事

大峠 直也 氏



・社会が変わる
・学びが変わる
・学校支援・放課後支援の役割とは?
学習意欲をおこし主体的な学びのために、体験を取り入れた教育が必要だ。教室が「リアルな世の中」と直結し、外部人材が使命感や誇りをもっている「本物の姿」に接する体験・経験を重ねてキャリアを積んでいく。キャリア教育は生き方教育だ。ここに地域がかかわることにより多様な体験の場づくりができる。

コーディネーターとして、他者への働きかけや協働していくことが大切だ。学校・家庭・地域を結束バンドのような役割で結んでほしい。

2021年度 学校・子ども・地域の恋のキューピット大作戦♡

子どもたちの「匹見を有名にしたい」の声から、PR動画を制作。また、「匹見全体で何か楽しみたい」という地域のつばやきは、「映画を観よう会」というカタチに。コーディネーターとして、雑談から言葉を摘む、自分から関係づくりを、学校と地域をつなぐためそれぞれの思いを丁寧に伝える、自ら楽しむなど心がけている。

【演習】「地域と学校の未来を紡ぐために」

○講義・実践発表を通して、話の中で「いいな!」と感じたところはどこですか?
○出た意見について、コーディネーターがどんな関わりをしたいからだと
思いますか?

【アンケート一部抜粋】

・地域と学校をつなぐ!という意気込みだけでやってきたが、「掘り下げる」「アクションを起こす」ことをこれから考え行動していこうと思う。
・学校運営の基本方針など、学校の活動や想いをしっかり知ることが大事だと思った。
・雑談から生まれる本音を拾ってつないでいけるようなコーディネーターになりたい。

しまねの社会教育基礎講座 “集って” “楽しむ” からの動きをつくる

益田会場 7/5：津和野町民センター

【講義】社会教育の役割と県社会教育で大切にしたいこと

「集って”楽しむ”からの動きをつくる」

益田教育事務所企画幹 澤江 健氏

【事例発表】社会教育実践から学ぶ

「ティピーテント×半日キャンプ」

益田市美濃公民館主事 吉部 叶実氏

子ども事業に、老人クラブの参加と「高校生キャリアサポート」を活用し、「ティピーテント」を製作。多世代交流と高齢者の生きがいをづくりをねらいに。仲間の顔合わせなどを工夫したことで関係性ができ、楽しく活動できた。



浜田会場 7/7：江津市地場産業振興センター

【講義】社会教育の役割と県社会教育で大切にしたいこと

「集って”楽しむ”からの動きをつくる」

浜田教育事務所企画幹 山藤 真樹氏

【事例発表】社会教育実践から学ぶ

「夏休み 防災デイキャンプ」

浜田市石見まちづくりセンター主事 渡邊 美紀氏

幅広い年代で取り組むことができ、地域のことを知り、人と人の交流を生むと考え「防災キャンプ」を実施。仲間である運営委員の得意分野を生かしてもらうことで主体的な動きにつながった。



【演習】「自分にできることを考えよう」

- 住んでいる(勤務している)地域の理想の住民像をイメージして付箋に書く
- 理想の地域住民像に向かって、「どんな「集ったり楽しんだりすること」から始めるか自由に意見を出す
- アイデアの中で、やってみたい事業や取組についてフリートーク

【アンケート一部抜粋】

- ・基礎講座とはいえ、何度勉強しても新たな気づきがある。
- ・グループワークも楽しく参加することができた。毎日の業務に追われ下を向いてばかりだったが、まずは「自分が楽しむ」を忘れずに。



【アンケート一部抜粋】

- ・社会教育の「集って楽しんで学んで動いて変えていく」は簡単そうに聞こえても実際にするのはとても難しいが、事例発表では、どの手順も丁寧に取り組んでおられる見習いたいと思った。



ファシリテーター養成講座 “対話の場づくり” を楽しむ (全3回シリーズ)

8/23・9/8・9/27
いわみーる

- 第1回：～まずは体験！参加型学習！！～
- 第2回：～ひろがる！ファシリテートイメージ！！～
- 第3回：TRY！ファシリテート！！



受講生と社会教育士の資格を持つ研修サポーター



アイスブレイク

【アンケート一部抜粋】

- ・難しいという思いがつのった。
- ・実際にやってみたファシリテートは、かなりエネルギーが必要で大変だなと思った。
- ・研修はすごく参考になった。自分としては少しスキルアップできたかなと思った。



プログラム体験



手法体験



企画・設計、リハーサル



TRY！ファシリテート

つながり♡つながる 実践発表交流2022

対話が活動を変える！ 11/22：あすてらす

【説明】「結集！しまねの子育て協働プロジェクトの視点から」

【オープニングトーク】 【演習・全体総括】

国立教育政策研究所 志々田 まなみ氏

・教育再生実行会議では、ポストコロナ期における新たな学びの在り方を考え、課題を解決するために「よりよく生きる」(ウェルビーイング)の理念の実現を目指すことが重要で、このような幸せが実現される社会は…多様性(ダイバーシティ)と包摂性(インクルージョン)のある持続可能な社会でもある。社会を構成する当事者として、自ら主体的に考え、責任ある行動をとることができるようになることが大切である。

・行動を変えるために環境を変える、行動の結果から学ぶ習慣をつけるために、多様な他者と出会うことが必要。

・対話を通じ、多様な他者と関わるための土台づくりをしていく。



② 「多様な主体がゆるやかにつながるネットワークの中で育つ子どもたち」

三原まちづくりセンタースタッフ
川本町観光協会
子育てサークル えっとね代表
かわもと あそロボ代表

柴原かなな氏
大久保一則氏
豊島 睦子氏
大村 信望氏
川本町教育委員会派遣社会教育主事 竹田 進吾氏



③ 「地域と学校が織り成す協働活動～加茂中校区のCSと協働活動の一体的推進をめざして～」

雲南市加茂小学校地域コーディネーター 岸本 寛子氏
雲南市教育委員会キャリア教育政策課 青木 浩平氏



【演習】「地域と学校の未来を紡ぐために」



【実践発表】

① 「みんなで作る放課後のカタチ

～七七日市放課後サクラマス教室立ち上げに向けて～」

吉賀町七日市公民館主事 茅原 美里氏
吉賀町教育委員会課長補佐 城戸 明美氏



社会教育主事講習B

生涯学習支援論 2/6～10

社会教育演習 2/13～17

いわみーる

- 生涯学習概論 eラーニング+ライブ配信
- 社会教育経営論 eラーニング+ライブ配信
- 生涯学習支援論 ライブ配信+集合
- 「参加型学習の実際とファシリテーション技法」
- 社会教育演習 集合
- 「事業計画立案の実際」



ライブ配信・講義



社会教育士になるぞー！
(SDS) 受講者にだけにわかる暗号です



支援論



演習



プレゼンテーション

今年度センター研修を受講したみなさん

公民館等職員研修（5回シリーズ）・ファシリテーター養成講座（3回シリーズ）
社会教育主事講習Bを修了された方をご紹介します。
県西部のさまざまな場所で、地域を盛り上げようと奮闘しておられます。

公民館等職員 研修



ファシリテーター 養成講座



社会教育主事講習B



受講生のみなさん！今後のご活躍を願っています♡
センター職員一同